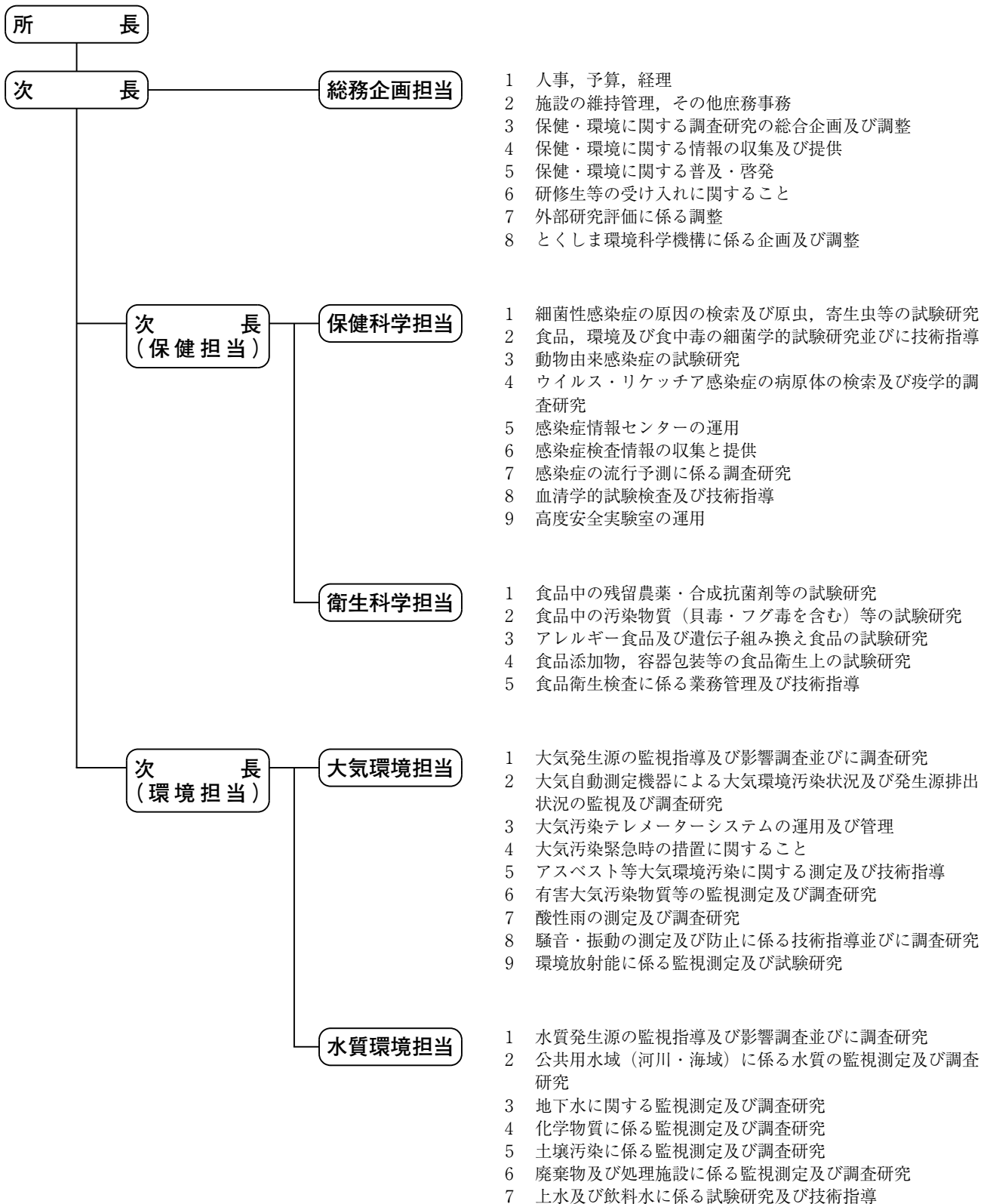


I 組織と担当業務（平成22年4月1日現在）



II 職員配置（平成22年5月1日現在）

区 分	事務職員	技術職員	臨時職員	非常勤職員	計
所 長		1			1
次 長	1	2			3
総務企画担当	2	2			4
保健科学担当		5	1		6
衛生科学担当		3	1		4
大気環境担当		5		2	7
水質環境担当		5		2	7
計	3	23	2	4	32

III 平成21年度の業務の概要

1 保健関係

事業名	担当		保健科学担当		衛生科学担当	計
			微生物	疫学情報	食品衛生	
試験検査	項目		971	1,546	13,710	16,227
依頼検査	項目					
調査研究	項目		16	905	576	1,497
研修指導	講師派遣	回	1			1
	技術指導	件	1		1	2

2 環境関係

事業名	担当		大気環境担当			水質環境担当		計	
			発生源監視	環境監視	騒音振動	発生源監視	環境監視		環境衛生
試験検査	項目		284	2,369	627	748	5,146	628	9,802
依頼検査	項目								
調査研究	項目			532			170		702

担当区分			総務企画担当	大気環境担当	水質環境担当	計
研修指導	講師派遣	回		1	5	6
	技術指導	件		5	1	6

IV 総務企画担当（企画情報関係）業務

1 推進班会議の開催

環境教育、研修等を推進するため、センター職員で構成する推進班会議を次のとおり開催した。（各推進班の事務局は総務企画が担当）

- (1) 普及啓発推進班
 - ① 環境学習会の開催、環境教育について企画立案
 - ② 施設見学及び業務の紹介
 - ③ 学習会への講師派遣
 - ④ 環境教育資材の研究・作成
- (2) 研修事業推進班
 - ① 試験・検査技術研修の実施
 - ② 所内ゼミナールの企画立案
 - ③ 保健、環境に関する研修会の実施

- (3) 年報編集班
 - ① センター年報の企画・編集・発行
- (4) 図書購入班
 - ① 図書の購入、管理

2 試験研究の企画調整

- (1) 試験研究評価委員会の開催

試験研究機関の外部評価は、徳島県が策定した行財政改革プラン「リフレッシュとくしまプラン」に位置づけられている。当センターにおいても、研究課題について外部評価を行うことにより、県民、県内事業者等のニーズを的確に反映した効率的かつ効果的な試験研究を行い、本県の保健衛生の向上及び環境の保全に資することを目的として、保健環境センター試験研究評価委員会（以

下「評価委員会」という。)が開催された。評価委員会は、学識経験者・企業・県民の代表等6名(委員長:和田眞徳島大学総合科学部教授)で構成され、採点による評価を行う。

平成21年7月に中間評価2件及び平成21年10月に事前評価1件の合計3件の研究課題が評価を受けた。評価課題及び評価結果については以下のとおりである。

なお、評価方法は各委員が各評価項目ごとに5段階の採点を行い、各委員の平均点をもって評価結果としている。当センターでは評価結果を研究テーマの採択・不採択、継続・休止、内容の修正、予算の配分等に反映させている。

① 中間評価

- ・徳島県における大気中の揮発性有機化合物(VOC)濃度について(3.9)
- ・徳島県内河川及び海域環境における医薬品汚染実態調査について(3.8)

② 事前評価

- ・食品苦情事例における迅速分析法の検討(総合3.9)
[内訳:必要性4.0 目標3.8 研究内容3.8 手法 3.8]

(2) 学術会議の運営

保健衛生の向上及び環境の保全に関する試験・調査・研究を推進するため、所長、次長、専門研究員及び各科長を構成員とする「保健環境センター学術会議」を本年度は2回開催した。

(3) 環境教育推進事業

本年度は、県内の学校への事業実績はなし。

(4) 研修推進事業

① 研修、実習等

ア 施設見学・研修

日時:平成21年6月1日, 6月8日及び6月15日

対象:徳島文理大学薬学部 計52名

内容:保健衛生関係及び環境関係の基礎的研修(薬学部早期体験学習)

イ 施設見学・研修

日時:平成21年6月5日

対象:徳島大学薬学部 42名

内容:保健衛生関係及び環境関係の基礎的研修(薬学部早期体験学習)

ウ 施設見学・研修

日時:平成21年6月25日

対象:徳島大学医学部栄養学科 12名
四国大学生生活科学部 15名
徳島文理大学人間生活学部 14名

内容:食品の微生物学的検査, 食品化学検査の概要等

エ 研修生受入

日時:平成21年11月26日~12月11日

対象:徳島大学医学部医学科 4名

内容:社会医学実習。各担当業務説明及び保健衛生関係, 細菌等に関する実習。

② 講師派遣

ア とくしまのあおぞら発見学習事業

日時:平成21年6月5日

対象:徳島市立加茂南小学校5年生 102名

内容:徳島県の大気環境説明, 移動測定車「しらさぎ たいき君」を使った大気汚染測定実習

イ みんなで水質汚濁を考える教室

日時:平成21年8月3日

対象:鳴門市第一小学校4年2組 29名

内容:河川の環境及び生活排水対策, パッケージによる水質測定実習

ウ みんなで水質汚濁を考える教室

日時:平成21年8月21日

対象:鳴門市第一小学校4年1組 28名

内容:河川の環境及び生活排水対策, パッケージによる水質測定実習

エ みんなで水質汚濁を考える教室

日時:平成21年8月31日

対象:鳴門市第一小学校4年3組 28名

内容:河川の環境及び生活排水対策, パッケージによる水質測定実習

オ 食鳥検査員研修会

日時:平成21年9月9日

対象:徳島県獣医師会食鳥検査センター職員 20名

内容:カンピロバクターに起因する胃腸炎患者の発生状況について講義

カ 平成21年度徳島県理科支援員等配置事業における特別講師

学校名	対象者	実施日時	内容
喜来小学校(松茂町)	5年生55名	平成21年10月26日	・水質環境講義(旧吉野川河口堰付近) ・簡易水質測定実習
城東小学校(徳島市)	5年生91名	平成21年11月27日	・水質環境講義(吉野川と河口周辺の干潟) ・簡易水質測定実習

V 試験・検査及び監視・測定業務

1 保健科学担当

(1) 感染症情報センター関係

① 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査事業は、平成11年4月1日より「感染症の予防および感染症患者に対する医療に関する法律」の施行に伴い実施されている。この法律により感染症発生動向調査事業は、事前対応型感染症対策の一つとして位置づけられ、患者発生状況や病原体検索など流行を早期に把握し、適切な対応をとることによって社会的影響の大きい感染症の蔓延を未然に防止することを目的とし運用されている。平成18年4月には、新しい全国オンラインシステムである感染症サーベイランスシステム（NESID）が稼働した。

徳島県では、平成15年9月に保健環境センター内に徳島県感染症情報センターを設置し、「徳島県感染症発生動向調査実施要綱」に基づき関係医療機関などの協力を得て感染症発生動向調査事業を実施している。

② 感染症発生動向調査病原体情報

病原体定点の医療機関で採取された検体について、「徳島県感染症発生動向調査事業における病原体検査指針」に基づき、当センター保健科学担当で検査（平成15年11月から実施）し、その検出情報を臨床診断別検出病原体と一年間の月別一覧表にして県内関係機関等に提供している。

(2) 微生物関係

① 感染症原因細菌等の検索と同定

腸管出血性大腸菌13株について検査を実施し、血清型別、毒素型別及び遺伝子型別検査を実施した。また菌株については国立感染症研究所に送付した。

② 感染症発生動向調査事業

県内の医療機関の協力により菌株として送付されたものも含め、35検体について病原遺伝子の検索、血清型別等検査を実施した。

③ 食中毒原因細菌の調査

食中毒を疑う事例14件（103検体）について、カンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオ、病原性大腸菌、エルシニア、黄色ブドウ球菌、ウェルシュ菌、セレウス菌、エロモナス等の食中毒菌検査を実施した。

そのうち、細菌性食中毒と判定されたのは3件であり、県内施設でカンピロバクターが原因となったものが1件、県外施設でウェルシュ菌及びサルモネラを原因とするものが各1件あった。

(3) 疫学情報関係

① 感染症流行予測業務

厚生労働省からの委託事業として感染症流行予測調査を実施した。本年は日本脳炎の感染源調査と新型インフルエンザウイルスの出現の監視を目的とした感染源調査を各々80件と98件実施した。日本脳炎については7月下旬の検査結果により汚染地区に推定された。インフルエンザウイルスについては検査期間中、ヒト型、トリ型とも分離・検出されなかった。

② HIV 検査業務

徳島県エイズ対策実施要領に基づき、保健所からの依頼検査を一次検査として1検体、確認検査として7検体実施した。検査の結果、確認検査で2検体が陽性となった。

③ 感染症発生動向調査事業

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況は、319検体を受け付け137検体からウイルスを分離・検出した。

④ 感染性胃腸炎疫学調査

感染症予防法における積極的疫学調査の検査依頼を2事例・13検体について保健所から受付けた。両事例からノロウイルスが検出され、合わせて10検体から遺伝子型2が検出され原因究明に寄与した。

⑤ 食中毒検査業務（ウイルス）

食中毒事例及び有症苦情事例（合計12事例・92検体）の有症者及び調理従事者、食材についてウイルス検査を実施した。このうち10事例からノロウイルスが検出され原因究明に寄与した。

⑥ 新型インフルエンザウイルス検査業務

新型インフルエンザ疑い患者からの鼻咽頭拭い液284検体について検査を実施した結果、新型インフルエンザ172件、インフルエンザA香港型が21件が検出された。

2 衛生科学担当

(1) 食品衛生（理化学部門）関係

① 野菜・果実類及びその加工品中の残留農薬検査

市販農産物53検体及び農産物加工品48検体について、延べ13,353項目の検査を実施した。その結果、農産物では26検体から27農薬、延べ57項目が検出されたが、すべて残留基準を満たしていた。また、農産物加工品では10検体から17農薬が検出されたが、食品衛生法上問題となるものはなかった。

② 組換えDNA技術応用食品の検査

市販の大豆及び大豆加工品5検体について、ラウンドアップ・レディー・大豆の定量検査を行ったとこ

ろ、食品衛生上問題となるものはなかった。

③ アレルギー物質の検査

市販の食品5検体について、アレルギー物質(そば)の定性検査を行ったところ、食品衛生法上問題となるものはなかった。

④ 輸入食肉類中の合成抗菌剤及び残留農薬調査

輸入食肉10検体について、合成抗菌剤及び有機塩素系農薬の試験検査を実施した。合成抗菌剤については、スルファジミジン等の延べ190項目の分析を行った結果、いずれの試料からも検出されず、また有機塩素系農薬については、デイルドリン等の延べ130項目の分析を行った結果、いずれの試料からも検出されなかった。

⑤ 市販魚介類中のビストリブチルスズオキシド(TBTO)、トリフェニルスズクロリド(TPTC)並びにPCBの調査

養殖魚介類(淡水魚)11検体中のPCB、養殖魚介類(海水魚)5検体中のTBTO及びTPTC(船底防汚剤)の検査を行ったところいずれも暫定基準値を下回っており、食品衛生法上問題となるものはなかった。

⑥ うなぎ及びうなぎ加工品中のマラカイトグリーンの検査

国産うなぎ5検体及びうなぎ加工品(中国産うなぎ白焼き)1検体について、抗菌剤マラカイトグリーンの検査を実施したところ、いずれの検体からも検出されなかった。

⑦ 外部精度管理調査

平成21年度食品衛生外部精度管理調査((財)食品薬品安全センター主催)に参加し、残留農薬(クロルピリホス、フェニトロチオン)、残留動物用医薬品(スルファミジン)及び組換えDNA技術応用食品の試験を行ったところ、いずれも良好な結果であった。

⑧ 残留農薬検査事前検証試験

残留農薬検査として、新たな対象品目となる4品目について事前検証試験を実施した。

3 大気環境担当

1. 大気環境等監視関係

(1) 大気発生源監視事業等

① 発生源常時監視(テレメータシステム)

県内の大口ばい煙排出工場・事業場7社について、主要煙道中の硫黄酸化物濃度等の各測定データをテレメータシステムにより、当センターの中央監視局に収集し、常時監視を行っている。測定項目は、硫黄酸化物及び窒素酸化物の濃度、硫黄酸化物及び窒素酸化物の総量の4項目で、得られた測定データについては、

3カ月又は4カ月毎に1回、延べ25回当該工場・事業場に立入調査を行い、稼働状況及び測定データの確認を行った。

② ばい煙等排出状況調査

ばい煙等の発生施設の届出のある工場・事業場に6回立入検査を行い、ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物等の測定及び大気汚染防止法、県条例等に規定する排出基準等の遵守状況等の確認を行った。基準超過となる工場・事業場はなかった。

③ アスベスト調査

アスベスト含有の吹き付け材の除去作業等における周辺環境調査を行った。18カ所で調査を実施し、73検体の測定を行った。隣地との敷地境界における濃度は、すべての地点で、10本/L以下であった。

④ 揮発性有機化合物(VOC)排出抑制事業

VOC排出施設を設置している工場・事業所に8回立入検査を行い、VOC濃度の測定を34カ所で行った。その結果、全ての工場・事業場においてVOC濃度は排出基準以下であった。

(2) 大気環境監視事業等

① 大気環境常時監視(テレメータシステム)

一般環境大気測定局は、主に鳴門市から美波町に至る東部臨海地域を中心に、県設置18局(うち1局休止中)、徳島市設置2局、阿南市設置4局の合計24局(うち1局休止中)設置し、ここで測定したデータは毎正時テレメータシステムにより、当センター中央監視局に送信され、大気汚染状況の常時監視及び光化学オキシダント注意報等の緊急時報発令を行っている。

平成18年3月から新テレメータシステムに更新し、従来の徳島県庁、徳島市役所及び阿南市役所に加え、南部総合県民局(阿南市)及び西部総合県民局(美馬市)にも収集データを提供しており、各環境担当はいち早く所轄地域の大気汚染状況を把握できるようになった。

さらに、新システムでは電話応答装置、ホームページ(パソコン、携帯電話)にて、現在の大気環境の状況や光化学オキシダントの緊急時報の発令状況を提供し、いつでも誰でも、何処からでもデータが見られるようになっている。

測定項目については、県設置の局では二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、窒素酸化物、オキシダント及び風向・風速を測定している。(このうち5局については、二酸化硫黄と浮遊粒子状物質の測定を平成20年4月1日より休止している。)また、地球温暖化問題の一環として、徳島局(都市部)及び由岐局(漁山村部)にお

いて、平成10年から二酸化炭素の測定を開始し、データの収集を行っている。

平成21年度は、環境測定データ約138万件の測定を行った。その結果、二酸化硫黄、二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、全測定局で環境基準値を達成していた。光化学オキシダントについては、徳島県大気汚染緊急時対策措置要綱に基づく予報、注意報の発令はなかったが、事前要請を1日行った。

また、自動車の排出ガスの影響を把握するため、徳島合同庁舎（徳島市新蔵町）に自排徳島局を設置し測定を行っている。測定項目は、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、一酸化窒素、二酸化窒素、一酸化炭素、非メタン炭化水素及びメタンの7項目であり、平成21年度においては、環境基準の定められている二酸化硫黄、浮遊粒子状物質、二酸化窒素及び一酸化炭素の全ての項目において環境基準値を達成していた。

② 移動測定車「しらさぎ たいき君」による調査

平成14年3月に更新した移動測定車「しらさぎ たいき君」では、一般環境大気測定局と自動車排出ガス測定局における常時監視を補完するため、移動局の利点を活かして2カ月ごとに調査地点を変えて自動車幹線道路沿道の自動車排ガス及び一般環境大気濃度を測定しており、調査結果は各種行政資料として活用されている。

③ 有害大気汚染物質調査

有害大気汚染物質による健康影響を未然に防止するため、平成9年度から調査を実施し、本年度も優先的に取り組む物質を中心に23物質について、毎月1回延べ5地点（鳴門市（鳴門局）、北島町（北島局）、徳島市（自排局又は徳島局）及び阿南市（大湊局））で測定を行った。その結果、すべての地点において、年平均値で環境基準値及び指針値を満足していた。

④ 大気環境中のアスベスト調査

大気環境中のアスベストの実態を調査するため、県内11地点（当センター、小松島市役所、阿南保健所、

吉野川保健所、旧宍喰町役場、道の駅神山の里及び一般環境大気測定局（鳴門局、川内局、由岐局、脇町局及び池田局））で測定を行った。いずれの地点も低濃度であった。

⑤ 酸性雨調査

当センター屋上（徳島市）に採取装置を設置し1週間ごとの降雨を受け、水素イオン濃度（pH）、電気伝導度（EC）及び降雨量の調査を行っている。その結果、雨水の水素イオン濃度は、年平均値で4.60であり、電気伝導度は、19.61 μ S/cmであった。

⑥ 環境放射能水準調査（文部科学省受託事業）

文部科学省受託事業として、平成21年度環境放射能水準調査計画に基づき、大気浮遊じん等について合計470検体の測定を行った。

なお、5月25日の北朝鮮における地下核実験実施発表に伴い、文部科学省より放射能測定強化についての協力依頼があり、6月5日までの12日間、空間放射線量率の測定・確認、大気浮遊じん及び降下物の採取・測定を実施した。

- a 測定対象物：大気浮遊粉じん、降下物、陸水、土壌、穀類、野菜類、牛乳及び降水
- b 測定項目： γ 線、 β 線及び空間放射線量率
- c 測定結果：特に異常と思われる値は検出されなかった。

⑦ 化学物質環境実態調査（環境省受託事業）

環境省受託事業として、大気中の残留性有機汚染物質（POPs）の経年的な残留量を把握することを目的として行っている。当センター屋上で年2回（温暖期と寒冷期）の調査を行った。また、化学物質初期調査として大気中のメチルパラベン の採取と分析を行った。

2. 騒音、振動関係

① 航空機騒音調査

航空機騒音の実態を把握するため、徳島飛行場周辺の1地点で通年調査を行い、8地点で夏季及び冬季調

○平成21年度における移動測定車「しらさぎ たいき君」による調査一覧

調査地点等	調査期間	調査項目
南部総合県民局阿南庁舎（対象：県道23号線）	21.4.1～21.5.31	・二酸化硫黄・浮遊粒子状物質
加茂名南小学校（対象：一般環境）	21.6.1～21.7.31	・窒素酸化物（一酸化窒素+二酸化窒素）
東みよし町役場（対象：国道192号線）	21.8.1～21.9.30	・オキシダント・一酸化炭素・二酸化炭素
上勝町役場職員駐車場（対象：一般環境）	21.10.1～21.11.30	・炭化水素（メタン+非メタン炭化水素）
牟岐町海の総合文化センター（対象：一般環境）	21.12.1～22.1.31	・微小粒子状物質
吉野川保健所（対象：国道192号線）	22.2.1～22.3.30	・気象（風向風速、温度、湿度、紫外線量）

○19優先取り組み物質一覧

番号	物質名	備考	番号	物質名	備考
1	トリクロロエチレン	○	11	アセトアルデヒド	
2	テトラクロロエチレン	○	12	ベンゾ (a) ピレン	
3	クロロホルム	△	13	酸化エチレン	
4	1,2-ジクロロエタン	△	14	ニッケル化合物	△
5	塩化ビニルモノマー	△	15	ヒ素及びその化合物	
6	ジクロロメタン	○	16	ベリリウム及びその化合物	
7	アクリロニトリル	△	17	マンガン及びその化合物	
8	1,3-ブタジエン	△	18	クロム及びその化合物	
9	ベンゼン	○	19	水銀及びその化合物	△
10	ホルムアルデヒド				

注1：備考の欄中、○は環境基準値、△は指針値が設定されているものを示す。

注2：23物質の残りの4物質は、①四塩化炭素、②1,1-ジクロロエチレン、③1,2-ジクロロプロパン、④1,1,1-トリクロロエタンである。

査を行った。

② 自動車騒音調査

自動車騒音の実態を把握するため、県下の主要道路沿いの20地点において騒音の調査測定を行い、過年度のデータとあわせて評価対象道路（平成17年度版センサス）の69区間における面的評価を実施した。評価区間内における住居等の昼夜とも環境基準達成率は、一般国道で93.1%、県道で94.0%であった。

4 水質環境担当

(1) 水質環境等監視関係

① 排水基準等監視事業

平成21年度においては、特定事業場等延45事業場に対し立入調査を行い、排水水の検査を行った。

検査項目及び検体数は、有害物質項目(カドミウム、シアン化合物等27項目)が38検体、生活環境項目(pH、BOD等6項目)が31検体、その他項目(銅、亜鉛等8項目)が16検体である。

ほとんどの事業場排水水については排水基準及び総量規制基準が遵守されていた。しかし、1事業場において、アンモニア性窒素の排水基準超過が認められ、県民環境部環境総局環境管理課において行政指導等が行われた。

また、徳島保健所が行った排水基準監視調査で基準超過が見られた2事業所について、当センターにおいて改善確認調査を行った結果、全ての事業場で施設の改善を確認した。

② 総量削減対策事業

ア 発生負荷量管理等調査

指定地域内にある排水量が50m³/日以上の特定事

業場延13事業場について排出実態調査を行った。検査項目はCOD、全窒素及び全リンである。また、下水処理施設1施設について24時間の通日調査により延24検体採水し、生活排水原単位調査を行った。検査項目はCOD、全窒素及び全リンである。

イ 小規模・未規制事業場の調査

小規模事業場（50m³/日未満の特定事業場）の11事業場について、COD、全窒素及び全リンに係る立入調査を行い排出実態の把握に努めた。

ウ 500人槽以下浄化槽の実態調査（浄化槽カット率調査）

2施設5検体の合併浄化槽及び単独浄化槽のCOD、全窒素及び全リンに係る調査を行い、排出実態の把握に努めた。

③ 水質環境基準監視事業

ア 河川及び海域の水質測定

平成21年度の公共用水域の水質測定計画等に基づき、水質汚濁の状況及び環境基準達成状況を把握するために、6河川12地点及び7海域28地点で調査を実施した。河川は流心部の表層水、海域は表層及び2m層で採取した試料について、生活環境項目(pH、DO、BOD、COD等)773検体、延2,861項目、健康項目(カドミウム、鉛、六価クロム、総水銀等)67検体、延478項目及びその他の項目(塩素イオン、総クロム、マンガン等)177検体、延602項目について分析した。

調査結果は、健康項目については、全地点で環境基準に適合した。生活環境項目については、一部の地点で大腸菌群数等で基準不適合が見られたものがあったが、総体的にはおおむね良好な水質であった。

イ 1,4-ジオキサン調査

過去に、排水から1,4-ジオキサンが高濃度に検出された工場があり、追跡調査を行っているものである。今年度は排出先の今切川河口で調査を行ったが、定量限界以下あるいは極低濃度であった。

ウ 魚斃死等原因究明調査

3件の魚斃死事故苦情があり、農薬が原因ではないかと考えられたので、原因農薬の調査を行った。1件目はエンドサルファン、ダイアジノン、リニユロンが検出され、2件目は、1,3-ジクロロプロペン(D-D)が検出され、3件目はイプロジオン、プロシドンが検出された。しかし、いずれも魚斃死後、時間が経過しての採取であり、低濃度であったため農薬が原因かどうか断定することはできなかった。

エ GEMS/Water 事業

平成4年度から引き続き、吉野川の高瀬橋において毎月1回、塩素イオン等38項目の水質調査を実施し、国立環境研究所にデータを提供した。

オ その他

井内谷川の水質について環境調査を実施した結果、特に問題はみられなかった。

新池川水質改善対策会議において進められている改善対策のひとつとして、新池川の水質について年4回、BOD等6項目を調査した。

④ 地下水監視事業

ア 概況調査

平成21年度の地下水の水質の測定に関する計画に基づき、定点方式の延8地点において揮発性有機化合物について調査を行った結果、すべての地点で基準を満足していた。また、ローリング方式の21地点において、総水銀、揮発性有機化合物等の基準項目及びpH、イオン類等のその他項目について調査を行った結果、すべての地点で基準を満足していた。

イ 継続監視調査

汚染地域における汚染の動向を把握するための調査として、3地点において硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素について調査を行った結果、すべての地点で基準を満足していた。

ウ 行政依頼

工場跡地において、「地下水浄化等の工事に関する協定」に規定する地下水浄化工事完了の判断基準に係る水質調査のため、延12地点でトリクロロエチレン等の調査を行った結果、すべての地点で基準を満足していた。

平成20年度の調査において硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素が基準を超過した地点において追跡調査を3回行った結果、1回基準を超過した。

⑤ 瀬戸内海広域総合水質調査（環境省受託事業）

本調査は瀬戸内海における水質汚濁の深刻化、広域化に対処し、瀬戸内海の水質汚濁の実態を調査して、総合的な水質汚濁防止対策の効果を把握するための必要な資料を得ることを目的とするものである。本県を含む関係11府県が瀬戸内海全域で一斉に調査を実施した。

本県関係の調査地点は紀伊水道及び播磨灘の6地点で、調査項目は一般項目（水温、色相、透明度、pH、塩素量、DO、COD、クロロフィル-a、イオン状シリカ）と栄養塩類（全窒素、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、全リン、リン酸態リン）で、各季節ごとに年間4回の調査を実施した。また、紀伊

水道及び播磨灘の2地点で、プランクトン調査をあわせて行った。

⑥ 化学物質環境汚染実態調査（環境省受託事業）

化学物質による環境汚染の未然防止を図るため、環境中の化学物質の濃度レベルの把握を行うとともに、分析法が確立していない物質について分析法の開発を行った。

本県が受託した調査は、化学物質分析法開発調査（水質中のクロルピリホスのLC/MSによる分析法開発）、モニタリング調査（水質、底質、生物（イガイ）、大気）及び化学物質詳細環境調査（水質中のプロピルチオウラシルの採取と分析）である。

⑦ その他

ア 南部及び西部総合県民局からの依頼分析

両総合県民局からの行政検査依頼分析を行った。有機塩素系化合物、全窒素等399検体である。

(2) 廃棄物対策関係

① 産業廃棄物調査

県内主要事業場から排出される産業廃棄物等計35検体を採取し、有害物質の溶出試験を行い、水銀、カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、シアン、セレン等延287項目の検査を実施した。その結果、廃棄物の判定基準を超えるものはなかった。

② 産業廃棄物の最終処分場の放流水等調査

産業廃棄物の最終処分場の放流水及び安定型処分場の浸透水等18検体について、一般項目（pH、COD、BOD、SS）、有害物質（水銀、カドミウム、鉛、六価クロム、砒素、シアン、セレン、フッ素等）延299項目の検査を実施した。その結果、放流水等の排水基準を超えるものはなかった。

VI 調査研究業務

1 調査研究

担当名	調査研究項目
保健科学担当	1 徳島県における感染性胃腸炎患者からの分離菌株の病原細菌別DNA解析 2 腸管出血性大腸菌のPFGE解析と全国データベースの活用について 3 徳島県における小児ヒトボカウイルス感染症の罹患状況について
衛生科学担当	1 残留農薬検査の精度管理に関する研究
大気環境担当	1 酸性降下物に関する調査研究 2 徳島県における大気中VOC濃度について
水質環境担当	1 徳島県内河川及び海域環境における医薬品汚染実態調査について 2 徳島県における廃棄物を利用したバイオエタノールの研究

2 共同研究

- | | |
|---|---|
| <p>(1) 研究課題 平成21年度厚生労働省科学研究
食品由来感染症調査における分子疫学手法
に関する研究
(中国四国地方衛生研究所)
研究協力 保健科学担当</p> <p>(2) 研究課題 エンテロウイルスの流行状況とウイルス分
離情報交換
(中国四国地方衛生研究所)
研究分担 保健科学担当</p> <p>(3) 研究課題 平成21年度厚生労働省科学研究
農薬等のポジティブリスト化に伴う検査の
精度管理に関する研究
(厚生労働省)
研究分担 衛生科学(食品衛生)担当</p> <p>(4) 研究課題 新型インフルエンザの検査法の研究
(四国4県衛生研究所)
研究分担 保健科学担当</p> <p>(5) 研究課題 平成21年度国立環境研究所C型研究
光化学オキシダントと粒子状物質等の汚染
特性解明に関する研究
研究分担 大気環境担当</p> <p>(6) 研究課題 平成21年度国立環境研究所C型研究
地球温暖化がもたらす日本沿岸域の水質変
化とその適応策に関する研究</p> | <p>研究(42)
発表者 大野ちづ子
発表学会名 第18回 環境化学討論会</p> <p>(2) 題 目 LC/MSによる分析法
2,3-ジヒドロ-6-プロピル-2-チオキソ-4
(1H)-ピリミジノン(別名:プロピルチ
オウラシル)
発表者 大野ちづ子, 藤井 伸基
発表書籍名 化学物質と環境(平成20年度化学物質分
析法開発報告書)</p> <p>(3) 題 目 2,3-ジヒドロ-6-プロピル-2-チオキソ-4
(1H)-ピリミジノン(別名:プロピルチ
オウラシル)(水質)の分析
発表者 大野ちづ子, 藤井伸基
発表学会名 平成21年度環境科学セミナー</p> <p>(4) 題 目 徳島県内河川及び海域における医薬品汚
染実態調査
発表者 大野ちづ子, 藤井伸基
発表学会名 第33回瀬戸内海水環境研会議</p> <p>(5) 題 目 光化学オキシダントと粒子状物質の汚染
特性解明に関する研究(6)
発表者 尾崎宏実(共同研究)
発表学会名 第50回大気環境学会</p> <p>(6) 題 目 光化学オキシダントと粒子状物質の汚染
特性解明に関する研究(9)
発表者 永峰正章(共同研究)
発表学会名 第50回大気環境学会</p> |
|---|---|

3 論文・学会発表

- (1) 題 目 LC/MSによる化学物質分析法の基礎的

VII 技術指導等

担当名	月 日	内 容	対 象 者
保健科学衛生科学	5月27~28日	新任食品衛生監視員技術研修	保健所担当者
大気環境	4月14日	騒音測定方法について	板野町
	5月22日	騒音のデータ解析について	鳴門市
	8月19日	騒音測定方法について	鳴門市
	12月4日	騒音測定方法について	石井町
	3月29日	航空機騒音データ処理について	松茂町・北島町
水質環境	2月3日	水質汚濁防止法改正における塩化ビニルモノマー等の測定について	計量協会